

港湾振興便り



2021. 11

第174号

*:

目 次

*:**:

1 ポートエッセイ —海上運賃の高騰から見えるシベリアランドブリッジ—
～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

2 トピック

- 釣文化振興モデル港の苦小牧港において有料試験開放を開催！！
(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)
- 秋田港に洋上風力発電の展示ブースがオープンしました
(東北地方整備局 秋田港湾事務所)
- 「横浜港・川崎港カーボンニュートラルポート(CNP)セミナー」を開催しました
(関東地方整備局 港湾空港部)
- 担い手の確保に向けた「神戸港、大阪港の海上見学会」を開催
(近畿地方整備局 港湾空港部 港湾事業企画課)
- 「中国地方国際物流戦略チーム 第21回部会」を開催
(中国地方国際物流戦略チーム 事務局
(中国地方整備局 港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室))
- 「水上交通と海上交通を活用した新たな観光ルート」の実証実験を実施しました！
(中国地方整備局 港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室)
- 「みなとまちづくりマイスター」に国土交通省港湾局長賞を授与しました
(四国地方整備局 港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室)

3 お知らせ

- ◇イベント名: 深日洲本ライナーの運航開始
- ◇イベント名: 「青山大介、谷川夏樹作品展、神戸みなと物語・アジアのマザーポートへ」
- ◇イベント名: 第14回KOBEみなとのガラス絵大賞
- ◇イベント名: ザ・シンポジウムみなとin釧路

*:

1 ポートエッセイ —海上運賃の高騰から見えるシベリアランドブリッジ—

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

*:

コロナ禍で、社会経済活動は深刻なダメージを受け、経済と暮らしの先行きが見通せなくなっているなか、先月「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」を開催し、「社会経済活動の確実な回復と経済好循環の加速・拡大」、「国民の安全・安心の確保」、「豊かで活力ある地方創りと分散型の国づくり」を3本の柱とする、令和4年度予算の確保と税制の特例措置等の支援策を講じられるよう港湾5団体としての要望書を決議した。

要望書は、決議後に会場において国土交通省の浅輪港湾局長に手交するとともに、財務省、自民党本部には全国大会終了後に出向き提出をさせていただいた。

会員の皆様からは、新年度予算の確保に向け、引き続きご支援をお願いしたい。

さて、昨年からは国際海上輸送では、ご存じの通り、本船のスペース不足及びコンテナ不足、これに伴う海上輸送費の高騰、さらに船舶の遅延などが生じており、深刻な事態となっている。

このような中、我が国から欧州地域への国際物流ルートの一つであるシベリア鉄道を利用した「シベリアランドブリッジ」が注目をされている。

以前から、日・欧州間の第3の輸送ルートとして官民により検討がされてきたが、輸送コストが海上運賃より高いことや輸送における品質保持などの面から、なかなか利用促進に繋がらないでいた。

欧州地域は、我が国にとって貿易額の面で見ると、輸出でアジア、北米地域に次ぐ第3位、輸入では、アジア地域に次ぐ第2位の規模となっており、2019年2月1日には、日・EU経済連携協定が発効しているなど、重要な貿易相手である。

コロナ禍で欧州との貿易額は一時伸び悩んではいたが、昨年末頃から回復してきている、これと同調するように欧州航路における海上輸送費の高騰が一気に進み、スエズ運河経由の海上輸送費は、ウラジオストック経由で「シベリアランドブリッジ」を使ったシー&レールに比べ、6割ほど高くなるという逆転現象が生じている。

リードタイムでは、シー&レールの場合でも極東港湾と欧州側国境における混雑などが生じていることから、優位性は見られないようだが、この混雑は、裏を返すと海上輸送からシー&レールに利用転換がされていることの表れではないだろうか。

このように、輸送ルートに選択肢があることは、今年の3月に発生したスエズ運河での座礁事故による6日間、420隻が停泊を余儀なくされたことを考えても、BCP面において活用が期待できるのではないかと。

また、シベリア鉄道は全線電化となったことは、カーボンニュートラルの推進においても、期待が持てることから、今後利用が進むことを望む。

*:

2 トピック

*:

●釣り文化振興モデル港の苫小牧港において有料試験開放を開催！！

(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)

11月3日(水・祝)、釣り文化振興モデル港の苫小牧港東港区の内防波堤(A)において、73名が集まり、有料試験開放が行われました。

国土交通省港湾局では、観光資源としての港湾における釣り施設や既存の防波堤等の利活用を進めており、地域の関係者による地方創生を目的とした釣り文化振興の取組が進められている港湾を「モデル港」として募集しており、令和2年8月には、苫小牧港が「釣り文化振興モデル港」として指定されています。

これまで、地域合意形成の場となる苫小牧港海釣り施設協議会が設置され、令和3年7月には、施設を安全に利用するための事業や利用促進のための事業を行う一般社団法人苫小牧港釣り文化振興協会も設立され、管理棟等の施設整備も進められてまいりました。

また、令和3年9月には、防波堤から釣り人が落水した状況を想定した救助訓練も実施されたところです。

新型コロナウイルス感染症の拡大といった状況下においてもこれらの準備を進め、これまで様々な課題や困難がありました。日本釣振興会北海道地区支部や苫小牧港管理組合をはじめとする関係者の皆様のご尽力があり、ここまで至ることができたことに感謝する次第です。

有料試験解放前の開会式においては、早朝からの開放であったにもかかわらず、親子連れの姿もあり、日釣振本部常務理事の岡田信義氏から祝辞を頂き、日釣振北海道地区支部長の地田哲哉氏から挨拶がありました。

今後、来年4月の本格開放を目指し検討を進めているところですので、開放後には皆様のご来場を心よりお待ちしております。



防波堤上の釣り人



釣果

●秋田港に洋上風力発電の展示ブースがオープンしました

(東北地方整備局 秋田港湾事務所)

政府は2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロとするカーボンニュートラルの実現を目標として掲げており、その中で洋上風力発電は再生可能エネルギーの切り札として期待されています。そのような中で秋田港及び能代港では、秋田洋上風力発電(株)による大規模な港内洋上風力発電設備の建設が進められています。

秋田洋上風力発電(株)は、この事業を身近に感じてもらえるよう、秋田港にビジターセンター(仮称)を開設することになり、そのオープニングセレモニーが10月8日(金)に開催されました。同ビジターセンター内には、洋上風力発電用風車の完成模型やケーブル実物、秋田港・能代港のジオラマといった、他では見られない洋上風力発電に関する資料が展示されています。そのほか、2020年秋から2021年夏までの工事の歩みが紹介されており、イラストを用いた風車の全体図や、地元高校の写真部により撮影された施工状況の写真などを用いてわかりやすく説明されています。また、ドローンを駆使して上空から撮影された迫力のある工事映像は、一般の来場者及び事業関係者からも好評を得ています。

地元の学校のフィールドワークの場としても活用されており、オープンから10月末までの間に約1,000人の方々が来場しています。また、秋田洋上風力発電(株)は今後の事業展開を見据え、まだ日本では数少ない洋上風力発電に従事する技術者を増やすために、学生向けのエネルギー教育や出前講座を実施していく予定です。

秋田港及び能代港の洋上風力発電設備の建設は、風車建設の基地港湾として整備された秋田港を拠点に行われました。今後、秋田県沖の一般海域での洋上風力発電導入に向けて、能代港でも基地港湾としての岸壁整備が行われており、カーボンニュートラル実現のため、両港の活発な利用が見込まれているところです。



オープニングセレモニーの様子



地元中学生による秋田洋上風力発電ビジターセンター(仮称)の見学

●「横浜港・川崎港カーボンニュートラルポート(CNP)セミナー」を開催しました

(関東地方整備局 港湾空港部)

2050年カーボンニュートラルの実現に向け、脱炭素化への動きが加速していることを受けて、横浜市、川崎市及び関東地方整備局は令和3年7月に「横浜港・川崎港カーボンニュートラルポート(CNP)形成推進会議」を立ち上げ、CNP形成に向けた具体的な取組について検討しています。

この度、横浜港・川崎港におけるCNP形成に向けた機運を醸成し、取組を加速するため、10月7日(木)に「横浜港・川崎港カーボンニュートラルポート(CNP)セミナー」をオンラインで開催し、横浜港・川崎港CNP関連企業を中心に76社180名を超える方々にご参加いただきました。

セミナーでは、開会時と閉会時に、阿達雅志前内閣総理大臣補佐官より、政府におけるCNP形成に関する経緯や意義、国際的な取組等の紹介と、横浜港・川崎港CNPの取組が日本のグリーン成長戦略をリードしていくことを祈念しているとの挨拶を頂戴し、当局より横浜港・川崎港CNP形成に向けたロードマップ(素案)の発表と、具体的な取組内容について報告・紹介を行いました。また、日本郵船(株)、(株)ENEOS、(株)JERA、東京ガス(株)及び(株)横浜銀行より、CNP実現に向けた取組についてご発表いただきました。

当日の資料および開催概要は、関東地方整備局港湾空港部ホームページをご覧ください。

https://www.pa.ktr.mlit.go.jp/kyoku/cnp_kaigi/cnp_kaigi.html



セミナーの様子

●担い手の確保に向けた「神戸港、大阪港の海上見学会」を開催

(近畿地方整備局 港湾空港部 港湾事業企画課)

近畿地方整備局では担い手確保の一環として、将来の港湾行政を担う国家公務員志望の学生を対象とした海上見学会を毎年開催しています。

今年度はコロナ禍により職員採用活動にかかるイベントの中止や規模縮小が相次ぐ中、感染症対策を十分に講じながら神戸港見学会を6月25日(金)・7月20日(火)・8月6日(金)の3回、大阪港見学会を7月30日(金)の1回、それぞれ開催しました。

海上見学会では、港湾施設の役割や港湾整備事業の必要性をPRするとともに、大水深岸壁を有する高規格コンテナターミナルにおいて実際に大型コンテナ船から貨物が積み下ろしされる状況や、本格的に事業が進められている大阪湾岸道路西伸部の現場状況などを見学頂きました。

参加した学生らはそのスケールの大きさに圧倒されるとともに、実際に動いている港湾を間近に体感することで港湾の役割について理解を深めている様子でした。

見学会後の座談会では予定の時間を超過するほど活発に質問が飛び交うなど、港湾への関心の高さが伺えました。普段間近で港湾に接する機会の少ない学生らにとって、本見学会が進路選択の一翼を担うものと考えており、入省後の業務に対する不安の解消や自らの将来像を考える上で貴重な経験になったと思います。



カーテンにより感染症対策を講じた船内の様子



見学会後の座談会



大型コンテナ船の荷役状況



大阪湾岸道路西伸部関連工事の様子

●「中国地方国際物流戦略チーム 第21回部会」を開催

中国地方国際物流戦略チーム 事務局
(中国地方整備局 港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室)

中国地方国際物流戦略チーム(以下、戦略チーム)では、10月7日(木)に「中国地方国際物流戦略チーム 第21回部会(以下、部会)」をオンラインで開催し、人材不足の課題や新型コロナウイルス感染症拡大による影響等を踏まえた、「産業競争力強化のため物流の連携強化、生産性向上及び物流ネットワークの強靱化」に関する政策提言(案)について意見交換を行いました。

部会では、始めに事務局より、戦略チームの取り組み状況や要望活動、政策提言のフォローアップ状況、中国地方国際物流事業者の現状と課題に関する現況調査結果について報告しました。次に、政策提言、今後の活動スケジュール、戦略チームの広報、啓発活動について審議がなされ、活発な意見交換も行われました。主な意見として、「戦略チームで作成予定の物流業界PR動画を活用して教育委員会や中学校、高校等で業界PRをしたい」、「AI化、DX化で一番ネックになるのは、中小企業のノウハウ、もしくは資金力と考えている」、「荷役作業の軽減に繋がるパレットの標準化など、できることから進めてもらえれば人材も確保しやすくなる」、「大雨による災害に備えた強靱な物流ネットワークの構築が必要と感じている」、「カーボンニュートラルの取組について事業者負担が生じる場合には、関係官庁のほうで補助制度、補助金など広範囲で検討をお願いしたい」等、多岐に渡りました。

中国地方国際物流戦略チームでは、引き続き各港利用者懇談会等で頂いた意見・要望をもとに、部会・本会議において政策提言を取りまとめ、政府や中央省庁に提言してまいります。

○中国地方国際物流戦略チームHP：<http://www.pa.cgr.mlit.go.jp/kokusai/index.html>



第21回 部会 オンライン開催状況

(参加者：有識者、経済団体、物流関係団体等、物流関係企業等、行政関係者)

●「水上交通と海上交通を活用した新たな観光ルート」の実証実験を実施しました！

(中国地方整備局 港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室)

10月13日(水)、中国地方整備局、中国運輸局、自治体等で構成する広島湾域旅客船ネットワーク活用推進協議会は、広島市周辺一部観光地に集中している観光需要の広島湾域(広島湾とその沿岸部)への拡大を目指し、「水上交通(河川舟運)と海上交通(内航海運)を活用した新たな観光ルート」の社会実験を実施しました。

本社会実験は2種類のルートで実施し、何れもJR広島駅前の川の駅から河川を下って、広島湾域において水上交通から海上交通への乗換えを行うもので、世界遺産・宮島に向かう途中、草津漁港背後で新たな観光スポットとして期待される広島市新中央市場の建設予定地を訪問しました。

本社会実験において、新たな観光ルートの具体化に向けた課題を抽出するため、観光業関係者を招聘し、以下の通り意見を聴取しました。

- ・川の駅から宮島に行く発想は無かったので新鮮、アイデアとして面白い。
- ・魅力的なサービスだが認知度が低く、これからの情報発信が重要。
- ・定員や気象等の制約があるため、募集型企画旅行ではなく、定番と異なる旅行を求める個人旅行者層がターゲットになる。
- ・水上交通事業者が行っている歴史や地元情報等に関する説明は旅行者に喜ばれる。
- ・広島市の「水の都ひろしま」構想については、観光コンテンツの掘り起こし、磨き上げが必要。
- ・広島市新中央市場の将来像が見えないので、強力なコンテンツが生まれなければ、宮島の滞在時間を優先する。

今回抽出した課題については、広島湾域旅客船ネットワーク活用推進協議会において検証し、今後の方向性について議論する予定です。



水上交通と海上交通を活用した新たな観光ルート

●「みなとまちづくりマイスター」に国土交通省港湾局長賞を授与しました

(四国地方整備局 港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室)

10月28日(木)、今年度「みなとまちづくりマイスター」に認定されたNPO法人瀬戸内こえびネットワークの甘利彩子事務局長に国土交通省港湾局長賞を授与しました。

「みなとまちづくりマイスター」とは、「みなとまちづくり」の取り組みを通じて、“賑わいの創出”や“地域の活性化”などの成果が得られた事例において、中心的に活動された方を「みなとまちづくりマイスター」として認定し、そのノウハウを全国各地へ伝承し、みなとまちづくりの推進を図っているもの(主催:(一社)ウォーターフロント協会、後援:国土交通省)であり、国土交通省港湾局は「みなとまちづくりマイスター」に対し、その功績をたたえ、港湾局長賞の表彰を行っております。

甘利事務局長におかれましては、瀬戸内国際芸術祭2010で発足したボランティアサポーター「こえび隊」を率い、島民や民間、行政などの媒介者として、芸術祭や通年の取り組みであるART SETOUCHIの全般を支えるために活動を行うことのほか、島々の行事への参加を行い、交流を進められるなど、幅広い活動を続けられており、高松港を拠点とした島や港を中心としたまちづくりにおいて先進的な役割を果たされたことが今回の受賞につながっております。

なお、本来であればウォーターフロント協会よりマイスター認定証、港湾局長より局長表彰を受賞者に直接授与するものですが、コロナ禍ということもあり、今回の授与式においては、浅輪港湾局長からビデオレターでお祝いのメッセージを頂き、認定証並びに表彰状は吉永四国地方整備局次長が代理で甘利事務局長へ授与する形での開催となりました。

また、マイスターへの推薦者である香川県からは小川文化芸術局長を始めとした関係者にもご出席頂き、小川局長からは甘利事務局長への祝辞も頂きました。

最後に甘利事務局長から「市民にとっても来訪者にとっても親しまれる港がこの町にあることを、私はとても誇りに思う。来年は瀬戸内国際芸術祭の第5回目が開催される。多くの人によりどころになり、安らぎの場所となるような港を目指して尽力して参りたい。」と、マイスターとしての今後の抱負を頂きました。

来年4月から開催が予定されている「瀬戸内国際芸術祭2022」を始め、甘利事務局長の今後ますますの活動が期待されます。



授与後の集合写真

*:

3 お知らせ(みなとのイベント情報)

*:

◇イベント名: 深日洲本ライナーの運航開始

【開催日時】 令和3年10月23日

～11月28日の土日祝日

【場 所】 兵庫県洲本市～大阪府岬町

【概 要】 自転車と一緒に乗船できる旅客船による1日4往復8便の運航

【問合せ先】 深日港発券所(観光案内所「さんぼるた」)

072-447-6202

洲本港発券所(洲本ポートターミナルビル内)

0799-24-1525

【U R L】 <https://fuke-sumotoliner.com/>



◇イベント名: 「青山大介、谷川夏樹作品展、神戸みなと物語・アジアのマザーポートへ」

【開催日時】 令和3年10月26日(火)～12月12日(日)

【場 所】 神戸海洋博物館2階企画展示室

【概 要】 兵庫県在住の画家・青山大介氏と谷川夏樹氏は、日本のコンテナポート発祥の地である神戸港を舞台とした絵本作りと普及をめざす「神戸みなと物語アクト」を展開している。今年「アジアのマザーポートへ」と題し神戸港がアジアを代表するコンテナポートへと成長し、その後阪神淡路大震災に直面しながらも復興していく様子を画家目線で表現している。あわせて絵本用に描き下ろした絵画作品と関連資料も展示する。

【問合せ先】 神戸海洋博物館 078-327-8983

【U R L】 <https://kobe-maritime-museum.com>



